足跡二つ

はく

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

足跡二つ

【コード】

N0443L

【作者名】

はく

【あらすじ】

ショートショートです。毎日がハッピーエンド。読む人の心を癒します。

銀世界。

今年もこの季節がやって来た。

「マサミ、大変だけど雪かきお願いね」

「はい、わかってます」

父は役員会議で東京へ出張中。

今週は母と2人きりだ。

頑張らなくては。

雪かきを持って、家の前の雪と戦わなくてはいけない。

でも、私はこれが嫌いではない。

だって、大切な思い出がいっぱいあるから。

これは心の奥の宝箱にしまっている。

「お母さん、終わったよ」

「はい、お疲れ様。お昼ご飯の時間よ」

「わあ、私、お腹へこへこ」

「早く来なさい」

「はい」

美味しかった。

母の料理は何でも美味しい。

雪かきをしたので、その美味しさも倍増だ。

その時、電話が鳴った。

電話には母が飛びつくように出た。

「もしもし、・・・わかってます。大丈夫よ。お願いしますね」

短い電話での会話が終わる。

「誰からだったの？」

「電話ね。気にしない、気にしない」

「えっ！？、気になるわよ」

「マサミには関係無いことだから心配しないの」

「えっ？、気になる」

「それより、お仕事手伝ってね」

「はっい」

私の仕事。

それは母の手伝いでもある。

母は、地元の名産品をインターネットで全国に売っている。

その手伝いをするのが私の仕事。

始めは全く注文の無い日もあった。

でも、今では口コミで大人気だ。

忙しくなる。

パソコンと格闘だ。

私が注文を受け、母が仕入れと発送の仕事。

時間の流れは速い。

あっと言う間に陽が落ちてしまった。

「はい、お疲れ様。晩御飯にしましょう」

「はっい」

ニュースでは、明日の天気予報が流れていた。

今夜から、明日の朝まで積雪があるらしい。

「明日もお願いね」

「えっ！？、何のこと？」

「雪かき、雪かき」

「わかってます」

「お風呂が沸いているので、先に入りなさい」

「はい」

1日が終わる。

天気予報が当たっていた。

銀世界だ。

雪かきをしようと外に出る。

あの姿は？。

お父さん？。

もう1人は？。

近づいている。

まさか・・・？。

「マサミ、帰ったぞ」

「お帰りなさい。でも、お父さんは会議じゃなかったの？」

「お土産だ」

「ただいま、マサミ」

「コウ君、・・・だよな？」

「そうだよ。忘れてしまったのかい？」

「ううん、忘れないよ」

「良かった。これからよろしくな」

「お父さん？」

「そういうことだ」

「嬉しい」

「俺もだよ」

「うん」

「よろしくな。これからずっと一緒だ」

「うん、嬉しい」

「俺もだよ。2回も言わせるのかい？」

「もっとたくさん言って！」

「後でたくさん言っよ」

「うん」

銀世界には父と彼の足跡が。

「幸せにするよ」

「うん、ありがとう」

足跡二つ

(後書き)

ファンタジー小説『時空の羽』もよろしくね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0443/>

足跡二つ

2010年10月28日07時01分発行